

山形大学工学部研究室特別研修生受入ガイド

(協定校複数同時受入れ限定版)

【工学部・大学院理工学研究科／有機材料システム研究科対象】

1. 山形大学の概要

山形大学は6学部12学科、7研究科を有する総合大学で、山形県内3地区にある4キャンパス¹では約9,000人の学生が学んでいます。東北地方有数の総合大学として、研究・教育の中心となる役割を果たしています。工学部、大学院理工学研究科（工学系）、大学院有機材料システム研究科（以下、工学部等といいます。）のある米沢キャンパスには、約3,400人の学生が学んでいます。

工学部等では、2019年5月1日現在、16の国と地域から来た約89名の留学生が学んでいます。海外には10の国と地域に27の学部間交流協定校があり、学生や教職員の交流を行っています。

2. 特別研修生の概要

山形大学工学部では、学生交流協定を締結している大学等²の学生を、受入れ研究室等における研修（外国の大学等においてインターンシップとして認められる研修を含む）を目的として、工学部等に受入れる制度を設けています。研究室特別研修生は、本学の学籍は取得できませんが、学部長または研究科長の承認の上、受け入れについて学長宛の報告を行います。

受入身分	滞在期間	対象者
特別研修生（学籍なし）	3日以上6か月未満 [※]	学部間交流協定校に在学している学生

※滞在期間は、団体として同一期間となるように申請してください。

3. 応募条件

期 間

日本における滞在期間が3日以上6か月未満であることが条件となります。受入期間は、派遣大学側と受入研究室との調整を行い、決定します。

応募条件

1. インターンシップにおける専門性が本学部および研究科の内容と合致していること。
2. 海外の学生交流協定校に在籍する学部学生または大学院生²。応募時に学部2年次以上で、大学生活を円滑に送れるレベルの日本語か英語の能力を有すること。

※英語能力試験（TOEIC[®] TEST、TOEFL[®] TEST、IELTS など）または日本語能力試験のいずれかの証明書を提出することができることを必須とします。なお、英語能力試験及び日本語能力試験の両方を得ていることが望ましいです。

※研修前又は研修期間中に在籍大学を卒業する学生は、応募することができません。

¹ 山形地区には小白川キャンパス、飯田キャンパスがあり、米沢地区には米沢キャンパス、鶴岡地区には鶴岡キャンパスがあります。

² 外国の大学、これに相当する高等教育機関若しくは外国の大学の課程を有する教育施設又は外国の大学院若しくは外国の大学院の課程を有する教育施設

3. 各大学からの学生受入人数は、若干名とする。ただし、大学の宿舎が満室の場合は、宿泊所の提供ができないため、受入れ人数を制限させていただくことがあることをご承知おきください。

4. 受入研究室の紹介

受入研究室（米沢キャンパス）

分野	教員名	研究テーマ（キーワード）
高分子・有機材料工学	教授 伊藤 浩志	自動車用プラスチック、高分子複合材料、ポリマーブレンド・アロイ、フィルム延伸・射出成形、ナノインプリント
高分子・有機材料工学	教授 栗山 卓	自動車用樹脂、パイプ、コネクタ等
高分子・有機材料工学	教授 高橋 辰宏	炭素繊維強化樹脂；高分子分散系、および、導電性の樹脂など
高分子・有機材料工学	教授 瀧本 淳一	計算機シミュレーションによるレオロジー
高分子・有機材料工学	教授 ミラノジュゼッペ	分子シミュレーション、高分子、生体膜、合成生物学
高分子・有機材料工学	教授 森 秀晴	高分子合成、機能性材料、有機/無機ハイブリッド
高分子・有機材料工学	教授 杉本 昌隆	高分子の粘弾性特性、超臨界流体発泡、エレクトロスピンニング、超多層フィルム、押出成形などソフトマターの成形加工
高分子・有機材料工学	教授 西岡 昭博	高分子のレオロジー、バイオマス資源、プラスチック材料、プラスチック成形加工、澱粉、セルロース、食品加工、コンポジット材料、ポリマーアロイ
高分子・有機材料工学	教授 松葉 豪	高分子構造解析、X線散乱、生体材料解析
高分子・有機材料工学	教授 吉田 司	再生可能エネルギーの変換貯蔵に関する材料、デバイスの研究（再生可能エネルギー 電気化学 太陽電池 蓄電池 水電解）
高分子・有機材料工学	准教授 スクマラン サティシュ	ソフトマター力学、流動、成形加工；分子シミュレーション
高分子・有機材料工学	准教授 香田 智則	理論モデリング、粉碎機設計、高分子材料
高分子・有機材料工学	准教授 宮田 剣	自動車・家電プラスチック、高分子包装材料・フィルム、ポリマーブレンド、高分子接合技術
高分子・有機材料工学	助教 高山 哲生	力学特性、高分子複合材料、射出成形
高分子・有機材料工学	助教 宮 瑾	結晶性ゲル、膜、繊維、不織布、粒子、合成、評価
化学・バイオ工学	教授 神戸 士郎	高温超伝導体の研究
化学・バイオ工学	教授 落合 文吾	高分子化学、材料化学、有機材料、有機-無機ハイブリッド材料

化学・バイオ工学	教授 多賀谷 英幸	資源リサイクル
化学・バイオ工学	教授 今野 博行	医薬品化学、天然物化学
化学・バイオ工学	教授 山本 修	材料科学、移植材料、皮膚再生、骨再生
化学・バイオ工学	准教授 増原 陽人	固体高分子型燃料電池（イオン伝導膜）、ハイブリッド発光ナノ粒子（ペロブスカイト量子ドット）、有機ナノ材料、ナノ集積構造
化学・バイオ工学	准教授 松田 圭悟	化学工学、プロセスモデリング、反応、分離、再生可能エネルギー
化学・バイオ工学	准教授 真壁 幸樹	蛋白質工学、蛋白質デザイン
化学・バイオ工学	准教授 矢野 成和	微生物、酵素
化学・バイオ工学	助教 カジィ グルサン アラ シャティ	生体材料、組織再生、組織工学
情報・エレクトロニクス	教授 佐藤 学	光エレクトロニクス、光学、光計測、画像処理、光波断層画像測定
情報・エレクトロニクス	教授 近藤 和弘	加算雑音、残響を含む音声信号のノイズ処理（音声品質、音声了解度、音声強調処理）
情報・エレクトロニクス	准教授 杉本 俊之	静電気応用、高電圧応用
機械システム工学	教授 近藤 康雄	機械加工、状態監視、樹脂加工、加工油剤、分解性・リサイクル設計、IoT モニタリング
機械システム工学	教授 古川 英光	3D プリンター、ゲル、ソフトマター、先端材料
機械システム工学	准教授 多田隈 理一郎	ロボティクス、機械工学
機械システム工学	准教授 西山 宏昭	レーザ微細加工、マイクロデバイス、ナノフォトニクス
機械システム工学	助教 安原 薫	熱・物質伝達、融雪、ミストの発生
機械システム工学	助教 姜 時友	計算神経科学、医用画像工学、人工知能

詳細について

山形大学工学部のホームページ内「工学部シーズ集」を参照してください。

<https://www.yz.yamagata-u.ac.jp/seeds/html5.html#page=1>

5. 日本での生活

【前期・後期の流れ】

前期の授業は4月上旬に始まり、8月の中旬までです。その後9月まで夏休みです。
後期の授業は10月上旬に始まります。12月下旬から1月初めにかけて15日日間程度の冬休みがあり、2月下旬から3月は春休みです。ただし、大学院生はこの限りではありません。

前期	4月	前期開始、オリエンテーション、履修登録
	7月下旬～8月上旬	期末試験
	8月下旬～9月	夏休み
後期	10月	後期開始、オリエンテーション、履修登録
	12月下旬～1月初め	冬休み
	2月上旬	期末試験
	2月下旬～4月初め	春休み

【来日直後の流れ】

山形に到着した後、希望者は、米沢国際交流会館等に入居します。その後、2～3日は、住居地の届出や銀行口座の開設などの手続き、生活と勉強のオリエンテーションなどがあります。

【住居と生活費】

山形大学米沢キャンパスで受け入れる特別研修生は、米沢国際交流会館に住むことができます。ただし、入居希望者が多い場合は、入居できないことがあります。

米沢国際交流会館へは、米沢キャンパスから徒歩で約10分程度です。

料金については、下表のとおりです。電気・ガス・水道の公共料金は別途かかります。インターネットも使用することができますが、個別に契約が必要となり、別途使用料がかかります。

保証積立金は、入居手続きの際に、一括で支払います。保証積立金は、退去時に部屋・布団・冷蔵庫のクリーニングや補修等のために必要な費用が差し引かれ、残った金額が返金されます

名称	タイプ（留学生用部屋数）	寄宿料／月	共益費／月	保証積立金／入居時
米沢国際交流会館	単身室（33）	¥5,900	¥800	¥30,000
	夫婦室（2）	¥11,900	¥900	¥36,000
	家族室（2）	¥14,200	¥1,200	¥45,000

《留意事項》

- 山形で生活するには、部屋代以外に光熱費、食費、娯楽・教養、交通費、通信費等、毎月60,000円程度かかります。（日本円110.27円≒1USD、日本円122.06円≒1EUR³⁾）
- 研究室特別研修生の旅費、宿泊費、食費、交通費、保険料及びその他の個人的な費用は、学生または派遣大学側の負担となります。
- 日本滞在中における万一の事故等に備えるため、滞在期間において有効な海外旅行保険に加入すること。
- 本プログラムの受入学生を対象とした奨学金はありません。奨学金に関する情報は、自分の在籍する大学にお問い合わせ下さい。

【日本を体験する機会】

³⁾ 2019年8月1日現在。

山形大学米沢国際交流サークル（YUICY）及びさまざまな国際交流団体が留学生を支援しており、これらの団体が主催する行事（最上川舟下り等）に参加することもできます。

山形大学の位置する山形県は、四季に恵まれ自然を身近に感じることができます。県内全域にわたって温泉を楽しむことができ、温かい人々とふれあうことができる山形県で、充実した留学生生活を送ることができるでしょう。



6. 応募方法と締め切り

特別研修生受入れ候補者の選考は、提出された書類をもとに行います。2020年4月からの研修を希望する場合は、2019年12月20日（日本時間）までに、2020年10月からの研修を希望する場合は、2020年5月1日（日本時間）までに、所属大学の担当部署等を通して応募してください。

所属大学の担当者は、応募書類を次のメールアドレスに送付してください。

山形大学工学部学務課学生支援担当

E-mail: kougakusei@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【応募書類一覧】

提出書類	
1	研究室特別研修生受入れ願 【様式1】（Wordデータで提出）
2	学習・研究計画書 【様式2】（Wordデータで提出）
3	在籍大学の成績表（PDFデータで提出）
4	日本語能力試験及び英語能力試験（TOEIC® TEST、TOEFL® TEST、IELTS など）の結果（画像） ※日本語能力試験または英語能力試験のいずれか受験していることを必須とします。 なお、英語能力試験及び日本語能力試験の両方を受験していることが望ましいです。
5	パスポート（写し） ※有効期限が留学期間中に満了しないもの
6	入居許可申請書 ※米沢国際交流会館への入寮を希望する場合のみで可

7. 結果の通知

山形大学への応募の結果は、来日予定月の1~2ヶ月前頃に、あなたの大学の担当部署に通知します。日本大使館あるいは領事館でのビザ申請手続き、航空券の手配は自分で行ってください。

8. 山形大学米沢キャンパスへのアクセス

下記 URL を参考にしてください。所要時間は、JR 東京駅より新幹線で約 2 時間です。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/access/>

米沢駅まで学生自身で来ることが難しい場合は、ご相談ください。途中の福島駅または仙台駅まで迎えに行くことは可能です。

【参考】

- ◎成田/羽田空港から東京へ・・・鉄道（成田エクスプレス、京成線、モノレール等）
- ◎東京から米沢駅へ・・・山形新幹線（つばさ）で約2時間

問い合わせ先: 山形大学工学部学務課学生支援担当

Tel:0238-26-3017(+81-238-26-3017)

e-mail:kougakusei@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

住 所: 〒992-8510 米沢市城南4丁目3-16

<http://www.yz.yamagata-u.ac.jp/>